総合型地域スポーツクラブとの連携プロジェクト

団体名●地域スポーツマネジメント研究室／代表者名●西村貴之（人間科学部准教授）

はじめに

総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」）は「人々が身近な地域でスポーツに親しむことができ、(1)子どもから高齢者まで（多世代）、(2)様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、(3)初心者からトップレベルまでそれぞれの志向・レベルに合わせて（多志向）、参加できるという特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」と説明される。総合型クラブの全国展開を地域スポーツ政策の中軸に据えたスポーツ振興基本計画（2000年）の施行から約20年が経過し、2018年7月1日現在の国内の総合型クラブ設置数は3,599となっている。第2期スポーツ基本計画（2017年）では「量的拡大から質的向上へ」という総合型クラブ政策の転換、そして、総合型クラブが地域社会活性化や「新しい公共」の担い手となることへの期待が示され、そのための方策として、地域が抱える社会的課題を多様な組織、団体との連携・協働によって解決していくことがめざされている。一方でスポーツ庁の調査結果では「クラブ運営を担う人材の世代交代・後継者確保」を課題としている総合型クラブは71.4%にも及んでおり、若手人材の発掘や育成が急務となっている。筆者が担当する地域スポーツマネジメント研究室は、“スポーツで人と地域を幸せにする”を理念に掲げ、行政、NPO法人、地域スポーツクラブ、プロスポーツクラブ、企業、まちづくり団体などとの連携プロジェクトを実施し、にぎわいの創出、課題解決といった地域活性化の担い手となる、「地域スポーツマネジメント人材」の育成をめざしている。

活動内容

以下では総合型クラブと本研究室とが連携した4つのプロジェクトを紹介する。

(1) NPO法人クラブぽっと（金沢市）との連携プロジェクト

日時：2019年4月14日（日）

場所：金沢市医王山地区内の水田

参加：フィールド基礎演習「田んぼでどろんこ運動会2019運営サポートプロジェクト」を受講するスポーツ学科2年生　24名

内容：同イベントの運営サポートスタッフとして参加し、イベントの事前準備や撤収作業、当日の競技運営（泥んこリレー、7人8脚、泥んこ人運び、泥んこ綱引き）のサポート実践を通じて、イベント運営の裏側でどのようなマネジメントが行われているかを学んだ。前日準備では各競技のシミュレーションを行い競技ルールの決定や当日の効率的な運営方法について提案した。

泥んこ人運び

前日準備

(2) NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ（金沢市）との連携プロジェクト

日時：2019年9月15日（日）

場所：金沢星稜大学体育館メイン・サブアリーナ

参加：地域スポーツマネジメント研究室に所属するスポーツ学科3、4年生　18名
フィールド基礎演習「こどもスポーツ体験イベントの運営サポートプロジェクト」を受講するスポーツ学科2年生　23名

内容：動きや技術を習得しやすいゴールデンエイジ期のこども達に5種目（トランポリン、卓球、ハンドボール、フェンシング、タッチラグビー）のスポーツを体験する機会を提供し、スポーツの楽しさを伝えるともに、こども達の可能性を広げるきっかけをつくることを目的に「スポーツDE愛広場」を開催した。種目設定、外部講師依頼、チラシ作成・配付、予算策定、当日運営までクラブによる助言も得て学生主導で実施した。

トランポリン体験

小学生 76 名参加

(3) NPO 法人宝達志水スポーツクラブ(宝達志水町)との連携プロジェクト

日時：2019年8月21日(水)

会場：宝達志水総合体育館(宝達志水町)ほか

参加：地域スポーツマネジメント研究室に所属するスポーツ学科3、4年生　18名

内容：①児童が運動を通じて遊び、②今後も継続して楽しめる遊びを伝え、③帰ってから両親に話したくなるくらい楽しい思い出をつくる、ということを目的とした「宝達志‘水‘祭」を開催した。プログラム内容調整、チラシ作成、予算策定、材料調達、当日運営までクラブによる助言も得て学生主導で実施した。

水風船で戦闘中

こども達との交流

(4) NPO 法人アイウェーブ(富山県南砺市)との連携プロジェクト

日時：2019年8月11日(日)

会場：南砺市井波社会体育館(富山県南砺市)

参加：地域スポーツマネジメント研究室に所属するスポーツ学科3、4年生　18名

内容：NPO 法人アイウェーブが主催する「アイウェーブ夏祭り」の運営サポートスタッフとして協力参加した。学生達は水風船や水鉄砲を使った水遊びブース、竹とんぼの工作ブース、流しそうめんや巨大アートといった各ブースに分かれ、クラブのスタッフとイベントの盛り上げに貢献した。事前の企画会議にも出席し、アイディア出しをした。

写真：水遊びブース

写真：工作ブース

成果、結果の考察

いずれのプロジェクトにおいても、学生達の存在は、イベント参加者の中心であるこども達との良い距離感をとることにつながり、参加者満足度を高めることに大きく貢献していた。クラブ関係者からもよい評価を得ていた。総合型クラブとの連携として、①総合型クラブが主導するイベントの運営サポートと、②クラブによる指導のもと学生主導で企画した内容をクラブの活動拠点地域内で開催する2つのパターンがあった。2019年度の連携では(1)クラブぽっと、(4)アイウェーブとの連携は①のパターンであり、それ以外の2つの連携は②のパターンであった。学生の活動意欲や学習効果という点では、②のパターンがより高い成果につながっていた。ただし、クラブが掲げるイベント開催目的に合わせ、十分な対話にもとづいて連携形態を選択する必要がある。

今後の課題、展望

総合型クラブ、大学の双方が求める点について対話をつづけ、より良いプロジェクトにむけた設計改善と継続実施に取り組んでいきたい。